

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799500067		
法人名	社会福祉法人 ブロードハーモニー		
事業所名	グループホーム ふれ愛四季の郷		
所在地	大阪府大阪市尾崎町504番1		
自己評価作成日	平成25年4月20日	評価結果市町村受理日	平成25年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年5月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境で尊厳ある日常生活と、安心して心地よい生活空間を提供できるよう努めています。また、家族様、馴染みの方も心置きなく面会できるアットホームな環境づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の「社会福祉法人ブロードハーモニー」は、阪南市の公募に応募して「地域密着型複合介護施設ふれあい四季の郷」を平成24年4月に設立した。当事業所のほかに特別養護老人ホームと小規模多機能居宅介護施設が併設されている。
 法人の理事長が内科医であるだけでなく、設立間もないにもかかわらず職員の介護経験はかなり豊富で、看取り介護にも積極的に取り組んでいる。また、社会福祉協議会を通じて、生け花、傾聴、回想法などのボランティアを導入して、健康と同時に心のケアも担保されている。事業所の理念の他に、一年の目標を職員全員で考えて作り掲示している。「正面から、目線を合わせての会話を心掛ける」である。アイコンタクト、まさしく介護の基本を大切にしたい目標といえる。来年在非常に楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を元に、GHの目標もつくり、申し送り時に唱和し共有・意識づけている	法人の理念の他、「地域の中で、明るく 楽しく ほっとできる生活」と事業所独自の理念を作りあげ、リビングルームに掲示するとともに、日々唱和しながら共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を日課に取り入れ近隣の方と挨拶をしている	天気の良い日は、事業所の付近をコースを変えながら散歩をし、近隣の農家の方々と挨拶を交わし顔馴染みになっている。野菜の収穫時にはお裾分けして頂いたりする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	傾聴ボランティアや回想法を取り入れ地域の方の協力を得ながら認知症のひとの理解の輪を広げていきたいと考えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では状況報告をし、質疑応答で意見を取り入れサービス向上に活かしている	メンバーは利用者家族、自治会役員、市役所担当職員、知見者、事業所職員等で構成され、隔月に開催している。会議では事業所からの報告だけでなく、話し合いを行いサービスの向上に活かしている。利用者が参加すれば、より充実する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	阪南市より派遣される介護相談員に訪問いただき、施設・利用者の状況を市に報告して頂き、指導していただいている	市役所の担当者とは、運営推進会議やケアマネージャー連絡会を通して、ケアサービスの取り組みについて指導を頂いている。また、ことある毎に役場へ出向いて行って相談をしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアからの移動(エレベーターと階段)に関しては、戻る事が出来なくなるかたがいらっしやるので、やむを得ず施錠している	全ての職員は、身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を理解し、内部研修会を行いながら拘束のないケアの実践に努めている。しかし、事業所のある2階エレベーターはロックされ自由に出入りが出来ない。	1階玄関での見守りを、事務所職員にお願いするなどして、利用者の自由な暮らしを支援するようにして欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス担当者会議やミーティング等で意見をだし合い、虐待の予防を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後勉強会等に取り入れていく段階		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に書面にて提示し、重要事項の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時にはお茶をだしリラックスして頂いた中で意見等がないかお伺いし、毎月相談員にもきていただいている	利用者や家族等とは、日頃の会話や様子の中から、また、運営推進会議の中から、食事に関する事、レクリエーションに関する事等意見・要望等を聞き出し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームのミーティング内で意見交換を行っている 現在の所1/月のペースだが今後は2/月の割合で実施していく	管理者は、毎月行われるミーティングで、接遇の在り方や食事に関する事など運営に関する意見や提案をする機会を設けている。その他、スタッフ間の事、シフトの事等、出た意見は可能な限り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用後、個々の事情による労働時間や休日の調整等を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎介護技術、チェックリスト表により、自己評価を行い全体の技術向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と勉強会や訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安なく安心してお過ごしいただけるような環境を心がけ傾聴の姿勢を心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会しやすい雰囲気を中心に日常の様子をお伝えしたり連絡、相談させていただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りを行い、ご本人、家族様の意向を確認しサービス向上に取り組んでいきたい		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、炊飯の準備を手伝っていただいたり、日常の中での普通のことを一緒に行っていたりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見の行事等には前もって連絡し一緒に参加していただいたり、月1回の担当者による一言お便りを郵送している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在面会のみとなっている	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、墓参りをしたり、生まれ故郷へ一時帰省し親戚の者や友人に会うなどを家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をみながら、食卓の配置を考えたりレク・散歩時の会話を引き出したり、名前を呼び合っていたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ退所者はなし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子観察を基に訴えに対し傾聴の姿勢を心がけ意向を把握するよう努めている	利用者がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中から、生活歴を参考にしながら聞き出し、その思いを家族と相談をしながら、出来る限り意向に添った支援をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の日頃の会話や、家族からの聞き取りの中から生活歴の情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子、状態を観察し適切と思われる対応を行っている またスタッフ間の情報共有をこころがけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にスタッフが関わった家人さんからの情報・意向をくみ取り計画作成に生かしている	利用者本人や家族との日頃の関わりの中から意見・要望を聞き出し、モニタリングとカンファレンスを繰り返しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に実践・様子気づきを記録している。必要なことはミーティング、申し送りにて情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自立度の低下に伴い、柔整体師などにも協力いただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1~2回生け花・傾聴ボランティア、回想ボランティアさんに支援いただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	決まった曜日に歯科往診があり必要な方は家族さんと相談し受診している	法人の理事長が内科医のため、本人・家族等と相談しながら内科に関しては理事長が往診している。その他、歯科医は週に一度の往診がある。それ以外の診療については、事業所職員と家族とが臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子の変化は記録・申し送り、医務⇄介護の申し送りノート等で情報伝達している。外部医院受診時も情報を報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時必要な情報の提供をし入院中も家族・医院と連絡をとり経過を入手し退院にむけての住環境も整え支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族の同意を得、状態が変わった時には相談しご本人家族の意向を聞き、適切なケアに向け支援していきます。ターミナルケアの研修も予定している	重度化した場合の終末期ケアの在り方について、事業所としての指針を定め、対応しうる最大の支援方法を本人や家族等と共有し、定期的に確認書を交わしながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備え研修を行っている (AED)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定し、消防署の指導の下、避難訓練(夜間想定も実施)を行っている。地域への協力体制はまだない	災害時における避難訓練や消防訓練を、夜間を想定した訓練も含めて、利用者と共に年に3回消防署指導のもと行っている。しかし、地域の人々との協力体制はこれからであり、備蓄・備品も見直しが必要である。	自治会等、地域の方々に避難している利用者の見守りを依頼するなど協力を依頼しながら避難訓練をされる事を期待する。又、必要最小限の備蓄備品の準備が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし又、スタッフ間でも注意し合い適切に対応するよう心がけている	食事介助やトイレ誘導などにおいて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない「です、ます」等の言葉掛けや対応が見られた。個人情報も第三者の目に触れないように、施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で答えを出せるような会話を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは予定しているがその方のタイミングに合わせ、希望に沿うよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で可能な方は自分で行っていただき支援が必要な方についてはスタッフ同士確認しあいおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食の炊飯は洗米などを手伝っていただいたり2回/月の手作りおやつ時は準備等一緒にして頂いている	給食会社の職員が特養の厨房で調理したものを運んできて提供しているが、家族の出来るだけ事業所内で調理をして欲しいの要望を受け、ご飯は事業所の厨房で炊いている。副食も一品ずつでも作っていかうと努力している。月に二度は利用者の希望を聞いて一緒におやつを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった形状にし水分は都度、計量し好みの飲み物が提供できるよう、お伺いし提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は三食とも、義歯をはずしうがいをいただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録をつけご本人のリズムに合った声掛けを行い立位可能な方は全員トイレで排泄していただいている	利用者の排泄パターンやサインを職員は把握して、あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導をし、一人ひとり希望に添った支援がされている。夜間は定期的に巡回して排泄介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐ投薬するのではなく、おやつ時にヨーグルトや飲み物と一緒にファイバーを摂りできるだけ水分を飲んでいただき様子観察後、医務の指示に沿っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めてあるが入浴日チェック表を用いご本人の希望に添った入浴実施に努めている	水曜日以外の毎日、14時～16時の間沸かして、入浴が出来る。入浴の曜日は、ある程度は決めているが、利用者のこれまでの生活習慣に合わせた入浴が楽しめるよう個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人の体調に合わせて午後臥床していただいたり、ソファでくつろいでいただけるよう対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医務より指示された薬種を夜勤者、日勤Rで2回確認、服薬時本人名前確認ご一人一人に合った服薬、工夫をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課としている散歩で季節の変化を感じて頂き室内では好みの音楽を聴いていたり、囲碁等で楽しみをもっといただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力もあり午後からの散歩や、年間を通しての行事毎に外出をおこなっている	日々の散歩は、事業所の周りの野原や田畑を見ながらの散歩である。農作業中のお百姓さんと会話が良く弾む。時には農作物のお裾分けに出会うこともある。花見の時期には、泉南アイピアや花咲ファームへも出掛ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生け花教室時等に参加された方は都度、家族様から預かったお金で支払って頂いたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には家族様に電話を取り次いだり、家族様をご用意して頂いた携帯を持っていらっしゃる方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で明るい空間を維持出来る様、心掛けしている。行事の写真や季節に合ったものを装飾し話題を共有できるようにしている	ゆったりした明るいリビングルームでは利用者それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者や職員の作った季節の展示があるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング側にソファを用意し気の合った方と座って頂いたり過ごしやすい環境となるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に馴染の物を持ってきていただくようお願いし、使用していたテレビや絵画、亡くなった家族の位牌も祀られている	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブル着席時、可能な方は椅子に座りなおして頂いたり口腔ケアは目の届くところで出来るだけ各々見守りのもと実施している		